

・不幸な市民感情の亀裂（沼朝5月20日「言いたいほうだい」）

長谷川徳之輔

沼津駅鉄道高架事業の是非を巡り、一カ月間にわたる斎藤衛市長のリコール運動も、必要な署名数に至らず、結局は不発に終わったようです。

今朝の新聞報道では、リコール運動の代表者の加藤益久さんが交通違反で逮捕されたという記事が出ていますが、リコールの結論がまだ明確になっていない今の時期に、このような報道がなされることに、鉄道高架問題を理性的に論議するという問題の本質がずれてしまうのではないかとこの危惧を抱かされます。

私は、この一年、都市計画の専門家として、沼津市民の立場ではなく第三者の客観的な視点で沼津駅鉄道高架事業の意義や問題点を冷静に考察し、発言してきました。高架事業に関する五万五千人という、有権者の三分の一近くの市民から求められた住民投票条例の制定が否決され、さらに斎藤市長のリコール運動までに至った故郷沼津の騒動について、今改めてコメントしたい焦燥感にかられています。

この一カ月間、心配ではありませんでしたが、リコール運動には全く接していませんでした。リコール運動をする加藤さん達からも、リコールの対象となつた斎藤市長さんかちも、市長支持派の人達からはリコールの黒幕のように言われた桜田光雄さんからも何の話もありませんでした。よそ者のくせに余計なことを言う、と無視されているからかもしれません。

情報は、時たま見る沼津朝日などの報道だけでしたが、リコール騒動は沼津市内では燃えていても、外から見ると無様で、情けない田舎芝居だったような感じがしています。

沼津朝日には賛否両論が出ていましたが、高架反対派の主張は居丈高で、ただけず、市長支持派の意見は論理性に乏しく、感情論だけだと思われたいし、両者とも、なぜ、もう少し鉄道高架事業、都市計画についての本質的な論争ができないのかとも思いました。

三島や裾野など周辺の市民は、この騒動を批判的に眺めていることでしょうし、沼津市民へ侮蔑的な感じを持ったのではないのでしょうか。

問題はその後のこと。市民の間に大きな亀裂を生んでしまったことです。鉄道高架事業のあり方ではなく、ただ反市長、市長支持という感情的な対立だけが広がってしまったことです。

リコールが成立して選挙になれば、誰が立候補するのか、理性的な選挙ができるのか、斎藤、桜田両氏の怨念の選挙になりはしないかという危惧がありますし、リコールが成立しなければ、その後の鉄道高架事業反対の運動はどうなるか。事業は、このまま強引に進められるのか、混乱を招いた市長や市議会の責任がどう問われるかです。

やはり最大の問題は、市民の亀裂状況が、どう回復され、冷静に戻れるかです。市民感情の亀裂を招いたリコール運動、拙劣な市側の姿勢、両者の無用な対立が東部地区のリーダーであった沼津の品格や指導力を確実に低下させたことでしょう。今後、沼津市は孤立の道を歩むかもしれません。

今こそ、沼津の再生が必要になります。

今回の不幸は、話し合いをせず、ただ対立の軸を広げてしまった行政にも、論争をもっと深めるべきだったのに、なぜか急いでリコール運動に入ってしまったのか、反対派にも、その責任はあるでしょう。

私は、今はよそ者ではありませんが、住民投票に関する市議会の討議に参考人意見として、議会は半年でも一年でも、条例制定の結論を延ばして市民との論争を深めるべきだと申し上げましたし、反対派にも反対運動の方法は行政訴訟でも異議申し立てでも色々あるから、リコールを急がず、徹底的に論争を広げるべきだと申し上げましたが、受け入れられませんでした。また、リコール運動が始まる前に何人かの沼津の有識者が集まり、市長と事業反対派に対して対話と協調を説き、たとえリコール運動が行われるとしても、フェアに行うべきだと説得したようですが、始めてみると両者の運動は拙劣で、本質的な論争は見えず、ただ感情的な対立ばかりの無様な泥仕合の姿を見せてしまった感があります。

いずれにしても、このような騒動が進んでいる事業に対して財政再建を第一に掲げる国が資金を投入する意思はないと思います。当面、事業が進むことはないし、先行きは尻つぼみになるかとは思いますが、しばらくは混

乱が続くことでしよう。

しかし、一方ではリコール運動によって市民意識が高まったことは事実です。すから、合併など将来の東部地域のあり方を含め、もっと全体としての都市づくりの論議が市民間に深まることも期待されると思います。

これを機会に、沼津市も市議会も、たとえリコールは成立しなくても、リコールの対象になった不名誉を恥じて、もう一度、市民との対話を進めることとし、市民運動も、多くの市民の支えに依って、ただ紛争を拡大するのではなく、沼津市にも、静岡県にも、国にも対話を求め、鉄道高架事業の都市計画の本質的な論争を深めることではないでしょうか。

騒動は不幸でしたが、災い転じて福となす、市民の亀裂を一日も早く解消して、本当の論争が進み、民主主義が生かされるように沼津市民の意識の高揚と奮起が求められています。

(明海大学教授、沼津出身・東京都目黒区)